

<ニュース資料>

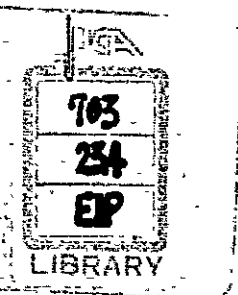
海外移住（ブラジル70周年記念）

キャンペーンについてのご案内

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 8. 20	703
	234
登録No. 13162	EIP

昭和53年5月

国際協力事業団



JICA LIBRARY



1024320[2]

<海外移住キャンペーンについて>

日本の海外移住は、ハワイへの明治元年に始まり、移住先の主要国であるブラジルへは明治41年に第1回目の移住が行なわれた。

日本の農業史上、移住は大きな役割を果たしてきているのだが、昭和30年代後半までは日本の社会政策的な面での移住形態であった。

しかし、昭和40年代に入ると、日本の経済状態の安定化と、成長性にも著しいものが見られ、移住者も激減している。反面、従来家族移住、農業移住から脱皮し、単身者、若年層といった若い人たちによる農業、工業移住がその主流を占めるに至った。

こうした移住の歴史は、我が国の経済の歴史と同一のものであり、その時代を反映させた移住の歩みである。

ブラジル移住から70年に当たる昭和53年は、日本、ブラジルの両国で移住の歴史をふりかえり、これを記念し、今後また新なる移住を推進させていくものとして、各種の70周年記念行事が予定されている。

国際協力事業団でも、このブラジル移住70周年を記念した講演会などの行事を予定する一方、広く国民全体に移住に対する認識を高め、理解を得るためのキャンペーンを初めて行うことになり、今年を契機として発展させて行く方針である。

移住の形態が変わり若年層がその中心となった今日、彼らに夢があり建設的な行動力のある積極的な移住を推進すべく、このキャンペーンを展開するものである。

＜キャンペーン
の内容＞

TV・コマーシャルによるキャンペーン

期 間 : 昭和53年6月1日

1

昭和53年8月31日

ネット局 : テレビ朝日 (15秒スポット)

ABC放送

CFの狙い : 南米にいる多くの世界の若者の中に、技術移住の若者の活躍がある。

ここに、無限の可能性、夢の実現、働く青春を象徴的に表現し、明るく建設的な移住に理解を求める。

作 詞 : 野村企鋒

作 曲 : 森田公一

タレント : 日本人、ブラジル人を含む各国の若者

学識経験者のブラジル派遣

1. ブラジル70年祭記念式典等への派遣

期 日 : 6月11日～7月2日

派遣メンバー : 7名

岩 動 道 行 参議院議員、海外日系人協会会長

梅 棹 忠 夫 国立民族学博物館長

増 田 義 郎 筑波大学教授

岩 瀬 義 郎 海外移住審議会委員

近 藤 典 生 東京農大教授

田 付 景 一 日伯中央会理事長 元駐伯大使

久 場 政 彦 琉球大学法文学部教授

2. ブラジル視察、講演会への派遣

期 日 : 11月中

派遣メンバー : 5名(人選未定)

3. ベルー移住80年祭への派遣

(含ボリビア、コロンビア60年祭)

期 日 : 54年3月

派遣メンバー : 3名(人選未定)

優良農家および関係者の招へい

1. ブラジル政府関係者

期 日 : 7月を予定(10日間)

- (1) ヘリオ・バルマ・デ・アラウダ(ブラジル国連邦政府
農地改革院計画局長)

日本人の移住地設定や農業移住者の導入に功績があつた。

- (2) ベンドラ・ダントス(ブラジル国ブラジリア連邦区農
務長官)

日系人移住地の整備、指導を通じ便宜供与; 援助を計
っている親日家である。

※ 両氏とも夫人同伴

2. 日系農家代表

期 日 : 11月を予定

招へい人数 : 3名(未定)

この件に関するお問合せ先

国際協力事業団

移住広報課 課長 末次輝雄

東京都新宿区西新宿2-1 新宿三井ビル

TEL 03(346)5364

10

10

10

10

10

Vertical text along the right edge, possibly bleed-through or a margin note, containing illegible characters.